

小児医療体制の強化で 安心して子育てできるまちに

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

6月25日、令和8年奥州市議会第2回定例会が閉会しました。日本共産党市議団は、住民のいのちとくらしを守り、福祉向上をめざし、市政を質しました。12日からは一般質問で諸課題に對峙しました。今号は佐藤美雪議員の質問についてお知らせします。

市として小児医療を

どう支えていくのか？

佐藤美雪議員はまず初めに、「小児医療の充実」について質問。今年4月から県立胆沢病院小児科常勤医が不在となり、入院・救急体制が弱まってしまった状況に対して、どのような対策を講じていくのか、質しました。

初期救急は

胆江圏域内でカバーしていく

当局は、今年3月に奥州保健所が関係機関を緊急招集する形



佐藤美雪 議員



で小児医療体制について協議し、初期救急に関しては圏域内でカバーする方向で検討していくと述べ、重症でないものが主となり、緊急性があるものや熱性けいれん、喘息、てんかんなどには胆沢病院で対応すると回答しました。

胆江圏域は小児科医数が

県内ワースト1

佐藤議員は、県議会2月定例会予算委員会において、県内9つの医療圏の中で胆江圏域は、小児科医師数が0.56人(子ども1000人あたり)と県内ワースト1で、一番多い盛岡(1.79人)とは約3倍の開

きがあることを指摘。危機に瀕している小児医療を自前で支えていくことを強く求めました。

この地域で子どもを産める

体制づくりが必須条件では

佐藤議員は続いて、「安心して子どもを産める体制づくりについて取り上げました。

市長選挙で公約にも掲げ、「子育てするなら奥州市いわてNo.1宣言」も打ち出しているが、産婦人科の設置など子どもを産める体制づくりが必須条件ではないか、と市長を質しました。

市長は、「具体的に動きだすのはこれからだが、市民の願いであり、安心して子育てができる政策の根幹となる部分。何としても作り上げていきたいと思っている」と述べました。

通学路の危険箇所

把握の徹底を

佐藤議員は、2件目「安全な通学路の整備」について質し、近隣地区から「なかなか側溝のふたの設置がかなわない」という声を聞き、通学路の危険箇所の把握と整備の状況がどうなっ

ているのか、質問しました。令和7年度は61件のうち48件対策を講じた

教育委員会は、毎年、道路管理者である国・県・市その他、警察、教育委員会で構成される「通学路安全対策会議」において合同点検を行っている。子ども会をはじめとする地域から危険箇所が寄せられ、小中学校が状況を把握している、と述べました。

令和7年度の実績は、61件のうち、48件対策を実施。優先的に対応しているが、横断歩道や信号機、歩道の設置等、多額の事業費を要するものは長期の対応が必要となり、すぐには対応できないものもある。引き続き、関係機関との連携を強化していく、と述べました。

核兵器のない 平和で公正な世界を！

2026 原水禁平和大行進

コープアテルイで歓迎集会&水沢地区平和行進に40人参加

1945年8月、広島と長崎で人類の歴史で初めて原爆が使われてから81年目の夏を迎えます。

平和行進は平和への思いを誰もがアピールできる最大の行動です。被爆者とともに「核兵器なくそう」「憲法を守り生かそう」「非核三原則を守ろう」「核兵器禁止条約に参加を」との声をひろげ、8月の原水爆禁止世界大会へ奥州から平和の願いをこめ、元気に行進しました。



広島・長崎へつなぐ平和行進